

タウンミーティング 会議録

日 時：平成21年12月1日（火） 19:00～20:45

場 所：生地コミュニティセンター（生地）

テーマ：1．地域医療体制について
2．総合交通ネットワークの整備について
3．新庁舎建設について

参加者：55名

【事務局】

ご苦労さまです。

ご案内の時刻になりましたので、只今から平成21年度黒部市タウンミーティングを開催いたします。

今年も昨年同様に市内の4つの中学校校下ごとに開催することとしておりまして、本日は最終日であります。今回のテーマにつきましては、一つ目が、「地域医療体制について」、二つ目が、「総合交通ネットワークの整備について」、三つ目が、「新庁舎建設について」の以上、3つのテーマです。

最初に市長からこのテーマについて、約20分ご説明申し上げます。その後、この3つのテーマについて、会場の皆様方から、順次、ご意見、ご提言をお受けいたします。

なお、終了時間は、8時30分ごろを目処として進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、先ほど受付でアンケート用紙をお配りいたしました。この場でご発言できなかったご来場の皆様からも自由にご意見をいただきたいと思いますので、日ごろから感じておられることをご記入いただきまして、お帰りの際、受付で回収させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

お寄せいただいた意見につきましては、今後、市政運営の参考にさせていただく予定としております。

それでは、堀内市長から、ごあいさつと、テーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。

【市長】

みなさん、こんばんは。

本日は、生地コミュニティセンターでタウンミーティングを開催いたしましたところ、皆様方には、大変ご多用のなか、またお仕事のあとお疲れのところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、今回のタウンミーティングの開催にあたりまして、いろいろお世話いただきました地元の自治振興会の役員、あるいは町内会の役員の皆さん方には心から感謝申し上げたいと思います。

さて、合併して4年目に入っております。また、新しい黒部市の総合振興計画を策定し、昨年4月からスタートし1年半あまりたったところでございます。黒部市には、沢山

の課題があり沢山の計画を立てたわけではありますが、それらの実現に向けて今鋭意努力しているところでございます。

ただ、一方で新政権になりまして、国の政策、いろんな制度が大きく変わろうとしております。そういう中で我々地方の財政にどう影響するのか、あるいはこれまでの制度がどのように見直されるのかというようなことにつきましてはまだまだ不透明な点が沢山ありまして、わからないところがございますが、とにかく我々は新しい黒部市の発展のためにその総合振興計画の実現に向けて、その重点プロジェクトを確実に実現することが大変重要ではないかと考えているところでございます。

それでは、今日は3つのテーマでご提言申し上げ、そしてその後皆さん方からご意見ご提言をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

詳細については、「課題提起」をご覧ください。

【事務局】

それでは、ただいまから本日のテーマに関して、会場の皆様からのご意見やご提言をお受けしたいと思います。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前につき、ご意見等を述べていただきたいと思います。

もう一つお願いがあります。このタウンミーティングでは、限られた時間の中でできるだけたくさんの方からご意見をちょうだいしたいと考えておまして、ご発言はなるべく簡潔に、お一人3分以内でということをお願いしたいと思います。

それでは、ご発言のある方の挙手をお願いいたします。

【Aさん】

吉田から来ましたAと申します。2番目の総合交通ネットワークの整備について、ちょっと考えるところを述べさせていただきます。

新幹線の駅、新幹線が1つの中心と考えたときに、あそこへマイカーでもって押し寄せると大変な駐車場の面積が必要になるということから考えますと、現在ある地鉄本線を強化されまして、今、通っている市内の各バスをできるだけ利用しやすいようにして、例えば私が新幹線に乗らなきゃならないということになったときに、まず、電鉄黒部駅までバスで行く。それから、電鉄黒部から真ん中に大きく書いてあります新幹線の地鉄の新駅まで乗っていこうというふうになると思います。

それから、県のより東部の方は、あるいは西部の方も含めて、魚津駅もしくは黒部駅、JRで来ていただいて、今度はJRの黒部と電鉄黒部を結んでいただく。ずっと昔あったように、私が中学校のころにこの電車がなかったはずであります。それを復元して、黒部駅から今度は新幹線駅までずっと行けるような体制をとれないものだろうかというふうなことで、JRの黒部駅、それから、ずっと西の人は富山駅へ行くでしょうけども、滑川から以東の方に来ていただくためには魚津もしくはJRの黒部駅から電車に乗って、今黒部駅に往復できるというふうな体制をとっていただけるといいんじゃないかな。

新しい新幹線の駅にバスを今から全部集中するというのも、これもまた大変な錯綜することだろうし、バスの運行も大変でしょうから、現在のバスを利用して新しい新幹線駅と、あるいはJRの黒部駅と有効なネットワークで結んでいただけるような、こういう考え方

で進めていただければなと、私の考え方を述べさせていただきました。

【事務局】

ほかに今おっしゃられたように、公共交通に関してのご意見、ご提言のある方はおられますか。どうぞ。

【Bさん】

生地のBと申します。

先日、富山ライトレールの根塚社長とお話しする機会を得まして、お話をしておったんですけども、富山市50万市民、その中でライトレールの沿線、歩いて駅から500メートル圏内におられる住民の方が4万5,000人、全長が15キロ、上下分離方式で、下の路盤、線路については富山市が負担をする。上の部分の運行に関して、電気代とか人件費とか、そういったものに対してライトレールで負担をするという方式で、今現状は赤黒とんとんという話なんですね。

その中で黒部市4万5,000の市民が50キロのレールを、しかも、黒部市全体ですから、沿線の中にどれだけいるかという話になると、1割程度になるのかな。そうするとどの程度の赤字になるのか、それをどう負担していくのか。これは富山地方鉄道さんが負担されるのかどうなのか。

それと、今実際に黒部市、ボランティアの形で富山地方鉄道さんの駅の改修ですとか、そういったことをしておられる団体があるんですけども、そういったことに対して富山地方鉄道は、ダイヤの見直しですとか利用しやすいような形、あるいはバリアフリーというようなものを取り入れていただけているのかどうなのかということ、いかんせんそこまではしていないんじゃないかなと。なぜそこまでレールにこだわるんだろうなというものが疑問としてあります。

【事務局】

総合交通ネットワークについて、ご意見のある方、まだほかにいらっしゃいませんか。どうぞ。

【Cさん】

前沢から来ましたCと申します。実は、私黒部のまちづくり協議会の中で、人生100年型まちづくりということで、今やっているわけですが、その中で、幼児から高齢者まで歩いて暮らせるまちづくりということを考えております。

今、公共交通のお話が出ていますが、私たちは現時点では乗っているわけです。しかし、そこまで行く便がなかなかできないわけです。大体高齢者、幼児が歩いて生活できる範囲の大体15分から20分が基本だと言われておりますが、その駅まで行く、例えば私は前沢にありますが、電車のある施設まで駅まで出るのが大変だと。それで、じゃ、バス、今現在コミュニティーバスが何本か出ておりますが、全然使えない状態です。先日たまたまバスが来まして乗ってみましたら、本当に私たち2人だけが乗っているような状態です。

したがって、バスの便もいいんですけども、私が今考えていることは、タクシーの割

引制度をぜひ提言したいと思っています。というのは、やはり富山県、全国もですけども、道路と自家用車が今までの生活でした。それが急にすべて歩くとか電車に乗れという生活にはなかなか乗りこなすことができませんので、ぜひこのタクシーを乗る、もっと使いやすく、私は無料にしてほしいとかそういうことを言っているわけじゃないんです。ぜひ割引制度を導入していただけたら、もっとタクシー会社もよくなるんじゃないかとか、高齢者も町に出ることもできるんじゃないだろうかと、基本的なことを私はぜひ当局の方をお願いしたいと思います。

特に市長さん、ぜひ我々の車に乗れないといひましようか、そういう年代が多くて、黒部市も75歳以上は免許証をチェックされております、全国的にですけども。黒部市は大体6,000名ぐらい75歳以上はおりますので、その人たちは皆、外へ出たいんだけど、なかなか車に乗れないと、タクシーに乗りたくても、ちょっと高くて乗れないという方が多いので、ぜひこのことにつきまして提言を申し上げたいと思いますので、よろしく取り計らっていただきたいと思ひます。

【市長】

ありがとうございます。

今ほど公共交通ネットワークについて3人の方からご意見をいただきました。

まず初めに、最初にAさんのほうから、新幹線の開業と同時に、まず、今のJR北陸本線は並行在来線になるというのが国との約束であります。最近、前原国土交通大臣が少し違った発言もなされておりますが、今までどおりそういう約束で進んでおります。

そこで、おっしゃられるとおり、その並行在来線と富山地方鉄道の接続については大変大事だというふうに思っております。私どもの言葉では総合乗り入れ、並行在来線と富山地方鉄道がやがて総合乗り入れすることが大変重要だというふうに思っております。特に新幹線の新駅に地鉄の新駅を設置し、そこで乗り継いで、宇奈月温泉方面に行かれる方はそこで乗り継いで行っていただく。逆に、魚津とか富山方面へ行かれる方の場合は、上市のほうに一旦上がりますが、それを直接並行在来線は富山方面に行けるようにすることが重要だと。そうしますと、新幹線黒部駅から富山市まで40分足らずで行けるという計算になります。

そのことがまず実現しなければならない。そのためにはどこで総合乗り入れするかが一つの議論としてあります。魚津のほうで乗り入れる、あるいは今先ほど言われた昔あった黒部支線を復活する、そういうこともあって、それぞれ技術的なこととか、あるいは予算的なことは試算をしております。

そして、もう一つは、滑川のところで上市のほうへ上がっていく、あそこは切りかえがあって山手に上がっていく電車も必要な部分もありますが、真っすぐ行けるということも必要です。それらを先ほどからいひます並行在来線の利便性の向上、利用者を増やすためにも、その並行在来線と富山地方鉄道の総合乗り入れをどうしていくのかということが、この検討においては大変大きなテーマだというふうに思っておりますので、その点、先ほどご提言いただきましたように、その乗り継ぎが大変重要だというふうに思っております。

また、新幹線新駅の駐車場につきましては、現在開業までに平成26年度までに380台とありあえずつくる。そして、近い将来500台、やがては700台までとれるだけの駐車場のスベ

ースは考えております。

新幹線の黒部駅の場合には、利用者が1日平均2,700人ほど予定されておりますが、私らはそれをもっと増やす必要があるというふうに考えておまして、そのためには滑川とか上市とか立山町さんが関東方面に新幹線で行かれる場合に富山駅から乗られるのか、黒部駅から乗られるのか、その辺は富山駅と黒部駅のやはり利便性とか、あるいは交通の面で競争になるだろう。利用者が増えれば、当然停車本数も増えます。そういうことにも大きく影響しますので、我々は富山県富山市から東側の地域全体が黒部駅を優先して利用してもらえよう、そういうような整備あるいは総合交通のネットワークをつくっていかねばならないというふうにも思っておりますので、先ほど提言されたことは大変私どもと全く一致した考え方であるというふうに思っております。

次、Bさんですか。LRT、富山のライトレールの社長であります生地出身の根塚さんとお話しされておるようではありますが、確かに富山市の人口規模と黒部市の人口規模は違います。ですから、鉄道、特に富山地方鉄道などの需要が今後どうなっていくかということについて、利用者が減れば、当然交通事業者はその路線を維持すること当然できなくなりますので、我々はこれまでの歴史的なことを見ている、この富山地方鉄道を中心とした地域、まちがつくられてきておりますので、これを何とかやはり将来残していかなければならない。また、そういうようなまちづくりを進めていきたいというふうに考えておまして、先ほど言われていましたように、コンパクトシティの中で駅を中心とした集団型のまちづくりというのは大変大事だというふうに考えます。

ぜひそのためにはもっと便利な、今のままではなかなか利用者は増えないと思いますので、もっと便利で、料金的にも、あるいは運行本数ももっと便利な形にしていかなければならない。その辺については富山地方鉄道さんともいろいろ協議しております。ただ、経営的に非常に厳しいものだから、地鉄さんは自分たちから積極的に提案なり発言はなされませんが、これは利用者である我々あるいは行政がその連携協力を申し出て、そして、地鉄さんを動かして、そして、一体となってそういう鉄道を維持していかなければならないのではないかとこのように思います。

これはやっぱり鉄道を残すということは、この地域として大変大事だというふうに思っておりますので、その点をご理解をいただきたいというふうに思います。

そして、最後にCさんが言われた、歩いて暮らせるまちづくり、これ、ほんとうにそのとおりであります。

そこで、歩いて暮らせるまちづくりを行うには、やはり鉄道を十分利用しなければなりません。そして、我々は先ほど言いました、今年度中に公共交通の法定協議会を立ち上げて、来年度からテスト走行をさせる予定であります。

今のところ幾つかの路線を考えておまして、1つは、宇奈月方面の愛本地区でテスト走行をさせよう。これはコミュニティーバスでやるのか乗り合いのジャンボタクシーなどでやるのか、この辺が今いろいろ検討しております。しかも、そのバスは、例えば愛本地区から三日市方面までバスで来るのではなくて、最寄の電車の幾つかの駅まで便利に高齢者の方々が使えるような、そういうようなルートあるいは仕組みを考えております。

Cさんは前沢からだということでもありますので、前沢とか田家も公共交通の非常に不便なところ。そこで、今考えているのは、コミュニティーバスとか乗り合いジャンボタクシーあるいは乗り合いタクシー、しかも、自分の玄関先まで何とか行ってもらえるよう

な方法はないのか。そのためには、例えば会員制、予約制、そして、できるだけ玄関先まで行けるような、そういうようなルートづくりのその辺の仕組み、料金も田家・前沢方面では片道200円程度でタクシーに乗れないだろうかというようなことの今検討を具体的にしています。

あるいは、例えば前沢の方面でもかなり地域が広いですから、かなり奥なり山手のほうの方については、駐車場を決めたら、駐車場でおろされたら、そこから1キロも2キロも家まで歩いていく高齢者がたくさんおられます。その方々をどうするのか。ですから、200円の切符をもう一枚出したら、それこそ中山の牧場までの玄関先まで送ってってもらえるようなそういう仕組みが、そのかわり予約でないとなかなか動けませんので、その辺の会員制、予約制、そして低料金というようなものの仕組みを考えておきまして、それを来年度、生地までは循環線のところと、今の愛本と生地・前沢循環線と前沢・田家方面、この3ルートぐらいで23年度ぐらいからは実証運行を始めたい。そのためには来年度、1路線か2路線でテスト走行したいというふうに考えておりますので、その辺はいろいろ利用者の皆さんの意見とかアイデア、こういうふうにしたらもっと便利になるんですがというようなことをぜひご提言いただければ、その辺、今、具体的に法定協議会を今年度立ち上げますから、その辺で議論いただいて、利用してもらえるような、そういうような運行をしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

【事務局】

Aさん、Bさん、Cさん、よろしいでしょうか。

そのほか、いらっしゃいませんか。

せっかくの機会ですので、ご発言いただければと思います。

【市長】

ちょっと時間がもったいないですから、ここは生地なものですから、生地・前沢循環線の、今現在、定期バスが動いているんですが、今の実証、我々が考えているのは、今のルートじゃなくて、例えば福祉センター経由とか、そういう今のバスではなかなか立ち寄れないような場所もルートに入れながら運行したらどうかというようなことで、今生地のルートの検討をしているというようなこともございます。

ほかに医療とか皆さん方の関心の高い新庁舎建設などについて、ご意見なりご質問があればと思うんですが。

【事務局】

どうぞテーマに関して、ふだん何か気づいておられる方おいでになられましたら、どうぞ。

【Dさん】

私、生地のDといいます。今の新庁舎につきまして、相当議論されているようですが、今、庁舎を3箇所の中でということはあるんですけど、1つの庁舎にした場合のある程度面積とか、そういう試算的なものなんですね。そういうことがあるとは思いますが、

自分は新庁舎をつくるときには弱者の気持ちというたらちょっと語弊があるかもしれないんですけど、黒部市は旧の黒部市と宇奈月町が合併したんですから、例えば宇奈月町の人あたりはどこへ建てりゃいいかと、例えば黒部が入善町あたりと合併するときには入善の人が反対したでしょう。僕が入善の立場なら絶対そうだと思います。

だから、今回の場合も3カ所の候補地が上がっているんですけど、やはり一番自分としては旧の三日市小学校跡地、トータル的な予算を抜きにしまして、あそこだけにはしてほしくない、なぜならこれからの黒部の将来を、我々が死んで50年後ぐらいの中で、若い人がここに庁舎が建っていったら、今の三日市あたりは黒部市としては伸びる要素がないような気がするんですね。

これから新黒部駅周辺、あるいはコラーレの前あたりがいいんじゃないかなということも自分では思うものですから、ここでもし、例えば広さとか建て屋の大きさ、どれぐらいのもので、予算的には三日市小学校の跡地にした場合に、現時点ぐらいでどれぐらい何%ぐらい安く、トータルで庁舎を建てるのに100%とした場合に、三日市小学校跡地では何%ぐらい土地代が浮いてくるのかと、そういうふうなことも単純でいいですから、わかれば教えていただければいいんですけど。

以上です。

【市長】

それでは、新庁舎の規模、そして、予算的なことをご説明申し上げたいと思います。

今現在の黒部庁舎が4,000平米ほどの広さがあります。そして、宇奈月庁舎も約4,000平米広さがあります。あわせて約8,000平米で分庁舎で業務を行っております。

そこで、1つの庁舎にした場合に、国で決められている広さの基準というのが一つあります。それが今、分庁舎で働く職員の人数から計算します。その人数が総合庁舎にした場合に245人の職員がそこで働くということを想定しております。それに対して総務省が決めた広さというのがありまして、1人当たり25.1平米、それが6,150平米、これが一つの基準です。その基準とは何かというたら、予算的に起債を起こすことができる基準ということでの決まりです。

そこで、建設検討委員会の中でいろいろ広さの議論もされました。その中で3つの庁舎の面積が出ました。1つは、端数があるんですが、それはこの場ではちょっとわかりづらいところがありますので、1つは8,000平米、今の庁舎を2つ合わせた面積、さらに市民の皆さん方がいろんな面で利用する施設を兼ね備えるのにしたら9,000平米、そして1万平米、この3つぐらいの規模がいいのではないかという議論になりました。これは延べ床面積です。それを何層にするかはまた別問題です。2層にするのか3層にするかは別問題。延べ床面積だけでそれぐらいが必要ではないかということです。

それに対して、なら、それを建設するときの建設予算はどれくらいかかるんだということでもあります。これはどこに建てようとも建物ですから、これはコストの差はないと思います。8,000平米を設計とか、あるいはいろんな諸経費全部入れてですが、ざっくり言うと8,000平米で約35億円、それから、1万平米で40億円、9,000平米がその中間というようなことになります。

それに対して、なら、まず、予算的にどうなっているのかということではありますが、庁舎を建設するための資金を先代の方々の努力で残していただいております。やがて庁舎が

必要になったときに使ってくれというのが15億円余りあります。本来庁舎を建設するときは、これは国の補助とかそういうものは全くありませんので、庁舎は自前です。ところが、今いろんな有利な起債を起せるとすれば、1つだけ使えるのは合併特例債、これは約7割が交付税措置されますので、それを使うとすれば、それは先ほど言った総務省が基準を決めている金額しか使えませんので、それが11億2,000万円ほど合併特例債が充てられます。合わせたら26億円余り、これが庁舎を建設するための特定財源が26億円というふうに思っております。

先ほど言いましたように35億円から40億円の金額から26億円を引いたら、35億円の場合は9億円、40億円の場合は14億円、これが一般財源で手出しです。それに対して、単年度ではできませんので、具体的な設計から含めれば約3年間ほどかかると想定しています。それを単純に3で割れば、平均すれば、1年間に9億円の場合は3億円、14億円の場合は約4.5億円、これぐらいの金額だったら、今の黒部市の力でも庁舎を実現することはできるのではないかと考えております。これがまず一つの予算的な考え方です。

ただ、今言ったことには、要は土地代が入っておりません。これに土地の広さがどれだけ要るかということを考えますと、駐車場スペース、駐車場をすべて新しくつくるとか、工夫するとかは別にして、駐車場スペースを今どう考えているかといいますと、245人の職員が働きますので、約200台の職員駐車場が要るだろうと。それは何かあるのを利用することは別問題として、それから公用車が約40台あります。それをあわせて240台、それから、当然来庁者の皆さん方、市民の皆さん方の駐車場が約200台余り必要かなと、あわせて450台、これぐらいの駐車場は何らかの方法で確保しなければならない。

これを単純に、それを一つの新たな駐車場として計算すれば、駐車場は1台25平米かかると言われていますから、1万1,250平米、駐車スペースとしてそれだけ、2階建ての立体駐車場にするとか、そういうことはまた別にして、面積的にはそれだけの面積が必要ということは計算されます。

それらをあわせて考えますと、先ほど言いました建物は8,000平米から1万平米と、それから駐車場が1万平米余り要るといようなことから考えますと、それらを全く平たい地面で考えますと、その地面の取得にどれぐらいかかるかということを考えて計算しますと、新駅周辺の坪単価とコラーレ周辺の坪単価とそれぞれ少し違いがあります。違いはあるんですけど、今の新幹線の関連で用地取得、今現在行っておりますので、1割程度しか違いはありません。ざっくり言いますと、先ほど言った面積を用地取得するとすれば約10億円かかります。コラーレを建設したときに、あの周辺を取得したときに14億8,000万円土地代がかかっております。大体用地代が取得すればそれぐらいかかるだろうと、そういう中で、どういう方法で進めていくかということを経営的に考えなければならないのかなというふうに思っております。

規模と予算の概算については以上であります。

【事務局】

Dさん、よろしいでしょうか。

そのほか新庁舎建設についてご提言を。どうぞ。

【Aさん】

今、市長さんがおっしゃいました職員245名、駐車スペースが200台というふうにおっしゃったと思います。市の職員の方々、緊急の場合は別にしまして、通常の勤務のときの通勤方法は原則としてマイカー禁止ということになさったらどうですか。そのために給与体制の中でちゃんと通勤手当というものはあるわけですから、ぜひバスを利用されて、職員のために200台も確保しなければならないという最初のおっしゃり方はちょっと解せませんが、どんなものでしょう。

【市長】

そのまま新たに準備するということを行っているんじゃないで、それぐらいは今の通勤状況だったら見込れますと言っておるだけであって、例えばいろんな方法があります。今現在、職員から1ヶ月1台1,000円であります、駐車代をもらっています。それは安い高いかは別にして、無料ではない。あるいは、職員は例えば各自で駐車場を確保しないと、職員駐車場は市では準備しないというようなことも考え方としてあります。

そういう中で、今現在既存である駐車場を利用するという、いろんな方法があると思います。私、今言ったのは、それぐらいの想定は必要だと、それをすべて市が今新たに準備するという話ではございませんので、その点、誤解のないようにしていただきたいというふうに思います。

【事務局】

Aさん、よろしいでしょうか。
そのほか、ございませんか。
どうぞ。

【Eさん】

植木のEです。3番目の新庁舎建設について少し述べさせていただきます。

まず、新庁舎の建設地ですが、旧の三日市小学校の跡地が最適だと考える者の一人です。もちろん広さは限られておりますが、市の所有地であり、有効活用をしていただきたいものだと思います。そして、この地を中心に地域住民の皆さんのご協力を仰ぎながら所定の土地を確保されるべきであると思います。

近年、三日市地区の道路網が大変整備されてまいりました。回遊性が見違えるようによくなってまいりました。そんな中で、市民が日々豊かな気持ちで生活に潤いが持てるよう、便利な場所に図書館を併設した庁舎があれば、その近くに市民会館や銀行や市民病院、そして、たくさんの病院があります。商店街もあります。日々の暮らしに必要なことを歩きながらできる、いわゆるコンパクトシティを目指すことができるのではないのでしょうか。

話がちょっと飛びますが、市の文化天然記念物である百年桜がありますが、二代目が誕生したそうでもあります。小学校のシンボルとしてたくさんの児童のもとで育っていくようではありますが、新庁舎建設につきましては、歴史と文化と伝統のある場所を重要視し、市民に便利で身近な親しみのあるものを、しかも、市民が誇れるようなものを目指して建設していただきたく、要望いたします。

終わります。

【市長】

ありがとうございました。

今ほどEさんのほうから旧三日市小学校の跡地がいいというご発言がございました。

参考までに、三日市小学校の跡地の広さについて少しご説明をしたいと思います。

旧三日市小学校の跡地は約1万500平米でございます。ここでぜひというご発言でございます。

また、参考までに、その周辺に三日市小学校跡地ではございませんが、その周辺に市の所有地として、さらに2,000平米余りあるということもあります。それらについてどう考えるかということになるのではないかなというふうに思っております。

もう一点、図書館併設という話もなされました。図書館につきましては、この総合振興計画の中で、実は後期に何とか実現したいということで位置づけされております。それを今のご提案は庁舎の建設とあわせて建設したらどうかというご発言であったかなというふうに思っておりますが、その辺、それらについても、図書館も大変大事な施設でございますので、それをどうするかというようなことについても、庁舎建設に並行しながら考えていく必要があるのかなというふうに思っています。

【事務局】

Eさん、よろしいでしょうか。

どうぞ。

【Eさん】

勝手なことを言いますけども、一緒にとは思っておりません。同じ場所に高層化した中でできないかなというように思いますし、通勤の途中、こういったタウンミーティングがあることを意識して見ておりますと、墓地の周辺に立派な駐車場がたくさんできておりまして、そこでやはり随分と駐車できるようになっておりますし、職員の方々がそのあたりでやられるとすれば、今の1万500平米というのは有効かつ来ていただくお客様のために利用できるのではないかなというようにも考えられます。

終わります。

【市長】

ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思います。

今、Eさんが言われたのは、地鉄線に沿って三日市の墓地の東側に市の駐車場があると、あそこを利用したらどうだというご意見だったと思います。また、参考にさせていただきたいと思います。

【事務局】

そのほか庁舎に関してご提案をされる方はございますか。

後ろの方、お願いいたします。

【Fさん】

生地のFといいます。庁舎の建設位置についてでございますが、一番大事なことだと思

われますのは、先ほどから公共交通機関との利便性、これをまず一番重要視すべき事項じゃないかと思います。

公共交通機関といいますと、まず、言えるのは地鉄の駅であろうかと思います。三日市では先ほどからいろいろ話が出ておりますように、市の所有地が近い距離の間に数カ所ございますが、今まで出てまいらなかった事柄といたしましては、東三日市の前に、ご存じのとおり、市民会館と働く婦人の家がございます。そこで、市民会館とか働く婦人の家の維持管理に要するもろもろの費用対効果が果たしてコストに見合うような現状であるのかどうか。

そこで、庁舎の位置につきましては、前回の調査、それから三日市小学校跡地、それから今ほど出ました地鉄沿線のところの墓場の近く、それから、今申し上げました東三日市駅前の市民会館や、それから働く婦人の家等々ございます。

これらを有効活用するということを考えれば、費用対効果が果たして十分生かされているのか疑問に思う市民会館の位置とか、それから、働く婦人の家の位置とかも含めて、駐車場とか有効活用をして庁舎を考えてみてもよろしいのではないかというふうに思います。

以上でございます。

【事務局】

それでは、もうお一方。

【Gさん】

生地のGと申します。3番目の庁舎の問題になりますけれども、その図面に出ていますように、私は意見というよりも、今、思いをちょっと述べてみたいと思います。

というのは、現在の庁舎の位置から最も近いのは三日市小学校跡地でございます。三日市小学校のところ、今の現在のところにあそから市の庁舎がなくなったら、私、ちょっとマイナス的な言い方をして悪いんですけども、三日市の町は一段と寂れるんじゃないかなと。私も生地の住民にとりましては、やはり市の大きな施設の拠点になるようなものがないので、何となく寂しいなと思いながら、我々も精いっぱい頑張っているつもりでありますけれども、なかなか賑わいをつくり出すことは難しいんです。

それで、この地図を見たときに、私、現在の思いとしては、コラーレのところと三日市はどっちでもいいんじゃないかなと、生地の住民にとりましては、ほぼ変わらないような距離にあります。

ただし、条件で一つお願いしたいんです。現在の消防署がコラーレ付近に移転するということがほぼ確実視されておりますけれども、そういったような緊急性を要する施設と、市の庁舎がくっついておるのはどうかなと。私は隣じゃなくても、何百メートルか離れておるほうがかえっていいんじゃないかなと。やはりいろいろな地形的なもので見ましても、今、断層帯という話も出ておまして、少し離れたところになったほうがいいんじゃないかなというふうに思っております。ですから、3つのうち、どれか選べと言われたら、1つじゃないので私、先にお断りしましたように、意見にはならんのですけど、そんな思いであります。

それと、あそこに立派なものができますと、先ほどもどなたからありましたけども、入善町、朝日町との合併は今後当面ないという前提でやるということでございますね。そう

ならざるを得ないと。やはり前回ちょっと失敗したのは、いわばその辺のとり合いみたいなのがあったということを知っていますので、その辺ちょっと危惧しております。

それと、最近、どちらでもよいというのはもう一つ理由があるんです。射水市の市長選挙があったんです。市長選挙で今度当選された方は、私は、県議会議員でえらい若い方なものですから、現職の市長が当選するもんだとばかり思っておったら、ところが、若い方、30半ばよりまだ前ですか、それで何かといたら、市庁舎を建てないと、それが非常に受けたということ、詳しい理由はわかりませんが、そういうのもあるかなというような感じを受けまして、細かい理由はわかりませんが、あそこは旧の新湊、大島、大門、小杉、下村、多くの町と村がまじったところでありまして、その辺の詳しいこともわからずですが、ああいうのがあるんだなと思って。最初は三日市のほうがいいなと思ったんですが、今、どっちでもいいわというような思いに、生地に在住する人間としてはどっちでもいいがじゃないかなと、新幹線のところはちょっと遠過ぎるかなというような思いでありまして、ちょっと意見に対する現在の思いであります。

もう一つ、長くなって申しわけないんですが、1番目と2番目の地域医療体制ということでありまして、それから、交通の面でありまして、特にやはり医療に関しまして、それから交通に関しまして、どちらに対しても弱者である年寄りにとっては大変重要な問題ですね。病院ということもあるんですが、生地については開業医が非常に少ないと、かつての3分の1ほどの開業医しかいないということでありまして、どうしても外へ出ていかなければならないということもあります。それは開業医はそれぞれ私営でありますから、なかなか誘致するというのは難しいのでありますけれども、やはり大きな病院ということもありますけれども、身近なそういうまちの医者というか、そういったものを何とか誘致できないかなと、誘導するといいますか、それができないかなと思います。

したがって、生地に病院がないものですから、どうしても三日市のほうへ行かなければならないんですが、やはりそういった場合に、生地から出かけるときには、自分で出かけるときにはバスです。バスは、私もつい1カ月ほど前に何年かぶりに乗ったんです。ところが、あの大きいバスが町なかでは無駄なんですけれども、私が乗ったら、2人降りてきました。その後、三日市まで私1人でありました。あのでかいバス、もったいないなと。もう少し小型のバスで、コミュニティーバスという形ですか、そういうので、路線だけを確保しなきゃならないんですけども、もう少し小型のバスで十分でないかなと。

それから、私、生地でずっと住んでおるものですから、交通機関としましてはバスが第一です。それから、地鉄の電車のところは、私はあまり認識ないわけですが、電車に乗って通わんならんとかということがない。JRはありますけれども、駅まで歩いて、あるいは自転車で行けば使えるということですが、地鉄のところはあまり私も電車のほうは意識がないので、その意見は差し控えますが、もう一つ先ほども言いましたように、医者に行くとしたら、今現在、お医者さんのほうで巡回バスみたいなのがありますね、迎えに来るバス、あれで大多数の人があれで行っているんじゃないかなと。

だから、地鉄のバス路線に、年間多額の補助みたいなを出しておりますけど、あれはちょっともったいないなと。医療機関が出しておりますバスもあるものだと認識の上で公的な足を考えてみたらどうかと私は思いますね。医療機関のバスが2台、3台続いて生地あたりは朝のうち行きますから、ああいうのはいつまでもあるものだというふうに思ってもいいんじゃないかなと、そうしたら、もう少し補助といいますか、そういう

ものを削ることもできるのじゃないかなというふうなことを思ったりもしています。

非常にばらばらの意見で申しわけなかったんですけども、3つに関しまして、現在私がちょっと思ったことを述べさせていただきました。どうも長くなりまして申しわけございません。失礼します。

【市長】

それでは、最初Fさんがお尋ねされたことに関してですが、Fさんがおっしゃられるように、現庁舎の場所あるいは旧三日市小学校の跡地、そして市民会館と働く婦人の家、あるいは先ほどお話のあった、その近くの地鉄線の沿線の市の駐車場、それらをもっと有効利用するべきではないかというご意見だったと思います。これは考え方として、こういう考え方も当然あるんだろうなというふうに思っております。

この中で1点だけ、市民会館の利用というのはかなりございまして、コラーレとは違った利用ができるものですから、市民会館の利用者というのは、ちょっと今正確にここで数字、今、私、言えないのですが、かなりの利用がございまして、市民会館の今後の設備対策、耐震化とかエアコンとかそういうものが老朽化してきていますので、今後はあの施設をどうするかということも一つの今後の大きな課題になってくるのではないかなというふうに思っているところであります。それらをうまく有効活用したらどうかということの意見だったかなと思います。また、十分参考にさせていただきたいと思います。

市民会館の利用は年間6万7,000人おられるそうであります。そういう意味では非常に大切な施設でないかなというふうに思っております。

次、Gさんのお話、幾つかあったんですが、まず、コラーレ周辺と旧三日市小学校跡地、どちらでもいいという話でありました。そういう意見の方もおられるのかなというふうに思っておりますし、宇奈月方面の方のご意見でも、宇奈月の地区から見ればどちらでもいいという意見の方が何人もおられました。できるだけ便利にもしてほしいけれども、これだけ距離が離れておるものだから、特にここはどうということは言わないけれども、できるだけ安上がりにやってほしいというような意見が多かったのではないかなというふうに思っております。

そういう中で、Gさんが言われた、消防の位置と少し離れておったほうがいいのではないかというご発言がございましたので、消防につきましては、今年度中には、今年度ちょっと過ぎまで、6月ぐらいまでには契約できるのではないかというふうに協議が進んでおります。コラーレ周辺ということと、新駅中新線の背骨道路に面しているということで、今、地権者の方と協議をさせていただいております。このままだとそこで決めていただけるのではないかなというふうに思っております。それとは別に距離を置いたほうがいいのではないかというご意見でございました。

それから、入善、朝日との今後合併はというようなご意見もありましたが、こういうご意見を言われる方もやはり何人かおられます。当分の間、新たな合併というのは、国のほうの方針から見ても、当分の間、新たな合併というのは考えられないのではないかなというふうに私は思っております。

それから、射水市のお話をされました。新市長が庁舎を建てないというふうに言われたわけではありません。あれは5つの市町村が合併されましたので、この分庁舎ですとやっていくということが現実的には無理だという今は発言されております。その中で、今まで

の計画では少し無理があるのではないかとということで少し時間をかけて検討し、その計画を見直したいというような考え方でなかろうかというふうに思っておりますので、要らないということではなかったと思います。

それから、開業医、テーマとはちょっと違いますが、開業医さんが地区に少なくなってきたということでもあります。逆に、黒部市民病院を中心に衛星的に開業医さんが大変増えてきております。黒部市民病院の考え方とすれば、病診連携ということで、先ほどの救急の話の中でもそうなんです、軽症な患者さんは最寄りの開業医さんでまず診てもらって、それが重症になっておられるとか、あるいはその治療を要するとかという場合は黒部市民病院に紹介いただくというような、お互いに開業医さんと黒部市民病院の連携というのは大変大事だというふうに思います。

特に外来の患者さん、外来の待ち時間が非常に長いということで、いろいろ指摘も受けております。年間24万人ほど来ておられたのですが、去年は23万人ほどに1万人減りました。だからといって、極端に待ち時間が短くなったわけではありませんが、考え方とすれば、軽症の方ではできるだけかかりつけ医院あるいは最寄りの病院、開業医さんで診ていただいて、重症の方を送っていただくというような考え方で、これからも進めていきたいというふうに思っております。その辺の病診連携というのも大変大事なことだというふうに思っております。

ぜひそういう開業医さんが生地地区でももう少し必要なかなというふうにも感じるところがございますが、なかなか開業医さんも市民病院を中心にして衛星的に動いていっているというのが今の現状であります。

それから、路線バスの話をされました。路線バスにつきましては、生地・前沢循環線で約600万円、地鉄さんには補助しております。大体毎年そのくらいの補助がされておりますが、その理由がもう少し増やすことができないかということでいろいろ検討しているのですが、そういう中でも、やはりコースとか時間とか、もうちょっと利便的にならないかということを考えられまして、先ほど言いました、この路線でも少しルートを工夫して、もう少し小型のマイクロバスなり乗り合いタクシー的なもので、生地方面から三日市方面に乗り合いジャンボタクシーあるいはコミュニティーバスみたいなものを、鉄道運行は来年度できるかもしれません。そして、さっき言った3路線のうちで、1路線か2路線はテスト運行しますが、その中で最終的には再来年、23年度には生地・前沢循環線のコミュニティーバス、乗り合いジャンボタクシー的なものをぜひ走らせたいと思いますので、その辺についても、コースとかやり方について、ぜひご意見をいただきたいなというふうに思っておりますので、それはこの場でなくて、また、いろんな機会にぜひよろしくお願いを申し上げたいと思います。

【事務局】

Gさん、よろしいでしょうか。

そのほか、いらっしゃいませんか。

【Hさん】

生地のHといいますけども、市庁舎の場所じゃなくて、先ほど市長さんが職員245名と言われましたけど、これは今現庁舎に、あそこへ勤めていらっしゃる方が245名、それと

も分庁舎あわせて。

【市長】

黒部庁舎、宇奈月庁舎に現在勤めているのが230人です。

【Hさん】

そうしましたら、先ほど言われました駐車場の245人分というのは、今度新庁舎にはまださほど必要じゃないということになりますよね。職員用の駐車場ということで。

【市長】

今、分庁舎でやっておりますし、さらに保健センターとかいろいろ考えなければならぬ職場がございますので、その新庁舎が建設される時点では245人ほどの職員がそこで働くだろうという想定で、今計算しております。

【Hさん】

じゃ、すべて入ってくるものと考えてということですか。

それと、この職員の数ですけど、宇奈月との合併がありますよね。それも勘案しなきゃいけないんでしょうけども、人数的なもの、過去、どういった人数できているんですか。

【市長】

今現在455です。合併後、40人ほど削減しております。

【Hさん】

そうすると、これから先の見通しというのは、そういったのはまだ立てていらっしゃらないですか。

【市長】

それは計画的には立てております。その四百何十人の中には保育所の職員さんとか調理員さん、そういう方が当然入っておりますので、一般職だけではございませんので、今、新庁舎に入る職員は一般職だけで考えておりますので、その辺の数字のギャップがあると思います。

【Hさん】

わかりました。

【事務局】

よろしいでしょうか。

すみません。最初にお話ししておりました終了予定時間が近づいてきておりますので、申しわけございませんが、あとお一人のご発言とさせていただきたいと思っておりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたしたいと思っております。

どなたかいらっしゃいませんか。

よろしいでしょうか。

いらっしゃらないようでありますので、ご意見につきましてはこれで閉じさせていただきますと思います。

それでは、閉会に当たりまして、堀内市長から本日お集まりいただきました皆様へのお礼も含めまして、ごあいさつ申し上げます。

【市長】

皆様方には大変熱心にご意見を出していただきまして、まことにありがとうございます。

まず、医療のお話を最初にしたわけでありましたが、大変新川医療圏の中でも黒部市民病院の役割というのはますます大きくなってきております。例で言いますと、婦人科でお産ができるのは、新川医療圏の中でも今2カ所しかございません。黒部市民病院と入善の開業医さんが1カ所、計2カ所だけであります。そういうことからして、あるいは小児科、あるいは救急、いろんな診療科においても、黒部市民病院に対する期待はますます高まってきております。

そういう中で、医師の確保、看護師の確保、それぞれが大変難しくなってきたおわけではありますが、あわせて施設の老朽化とか手狭になったことなどで、大きな工事をしなければならなくなってきました。

ご質問があれば、お答えしようと思っていたのですが、平成28年度までに病院の改築を完成させるとすれば、改築に5年間はかかります。今の病院を運営しながら駒を動かすようにして改築していくということになりますので、その予算規模、医療機器を入れて100億円を想定しながらやっていきたいというふうに思います。大変大きな金額でありますし、その責任も大変大きな重い責任がございますので、病院経営もそうですし、病院としての医療、そういうものについて、しっかりとした体制をつくっていきたいというふうに思っておるところであります。

次に、公共交通ネットワークの話であります。いろんな考え方がございますが、少なくとも間違いなく少子・高齢化が急速に進んでいきます。そういう中で社会保障なども急激に増えてくるわけでありまして、そういう高齢者とか、例えば子供さんなどの移動手段というものについて、我々はきちんとこれからもつくっていかねばならないというふうに思っておりますので、これまで実は富山県の10市の中でコミュニティーバスを運行していなかったのは黒部市だけあります。遅れたものですから、まだ新幹線の開業までにもっとこの交通の不便な地域の解消も図られなければならないし、いろんな観光客の対応もしなければならないし、遅れた分だけ便利で使いやすくて安価なものを何とか工夫してやっていきたいというふうには思っておりますので、先進事例がたくさんありますので、それらを参考にさせていただきながら、黒部市としての公共交通をしっかりと充実させていきたいというふうに思っております。

最後に新庁舎の建設であります。いろんなご意見ございます。今日は財政の話は出なかったのですが、当然今ほど病院の話とか、新庁舎とか、新幹線関連とか、あるいは学校教育施設の充実とか、今いっぱい計画しておりますが、それらは確実に私はやっていかねばならないと思っておりますが、また一方では、財政の健全化も進めなければならないというふうに考えております。

そのためには年間投資予算額として約30億円以上はかけられないというふうに思ってお

ります。今、構成比として年間26億円ほど元利で返しております。それに対して約15億円の新規の起債しか起こせない。そうすれば、財政は少しずつですが、改善されてきます。

よく実質公債費比率の話が出ます。20年度決算で22.9%で、21年度、今年度決算はさらに若干悪くなります。これは計算できますので、そこが一つの悪いほうのピークで、少しずつ改善をさせていき、総合振興計画の最終年度であります29年度までには何とか18%を切れるように改善させなければならないというような財政的なシミュレーションもしっかり行っております。

ですから、年度において特別な山をつくったりしないで、大体平均的に平準化するということが必要なというふうに思っておりますので、そういう意味では、やらなければいけないことをあれもこれもと全部言われても困るのですが、大体順番に、これが終わったころには次これが始まってというようなことで、順番に今計画を立てておりますので、その辺の財政もしっかりと改善することにも注意しながら進めてまいりたいというふうに思っております。

何を行うにしても、やはり生地の皆さん方の信頼と協力がなければできませんので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げて、本日のタウンミーティングの御礼にかえさせていただきたいと思っております。本日は大変ありがとうございました。

【事務局】

本日はどうもありがとうございました。会場にお忘れ物のないように、また、お気をつけてお帰りいただきますようよろしくお願いいたします。

それと、先ほどお配りいたしましたアンケート用紙ですが、会場出口の回収箱へお入れいただきますようよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

了